

ボランティアセンター 東日本震災ニュース

日本医療福祉生協連 近畿ブロック有志

No.17 2011年5月25日
発行担当 尼崎医療生協・堤

復旧進む坂元町



現在の地域の状態と被災された方のニーズを把握するために坂元と花釜の両地域を一軒一軒訪問してまわっています。坂元町は多くのボランティアの方が入られていて、どんどん復旧が進んでおり、庭も家も綺麗になっているお宅もしばしば見受けられます。しかし、まだ泥かきや瓦礫撤去などが終わっていないお宅もありますので、継続した支援が必要です。

花釜地域は今後居住可能になるのかまだまだ不透明なため、要求があがりにくくなっています。また、泥かき等の支援を求められていた方のお宅も応急処置としての作業は粗方完了していますが、まだまだ問題は山積

みとなっています。例えば、側溝の掃除の問題。側溝は泥が放置されているため、そこからたくさんのがみがわき、非常に不衛生な状態です。健康面を考えると早急な対応が必要とされますが、この側溝の掃除を行政の区分とするか、ボランティアでやってもいいのか、検討中のため未だ手を出せないでいるのが現状です。

柴田町の組合員さん宅を訪問

みやぎ県南医療生協の組合員さんと共に、柴田町で被災された組合員さんのお宅を訪問しました。みやぎ県南医療生協では、震災後の組合員さんの状態を把握するため、すべての組合員のお宅に訪問する全戸訪問を行っています。柴田町は海岸線から離れたところにあり、津波の被害は無かった地域です。よって、遠眼に見れば被害が無いように思われますが、訪問する中で震災の被害が多くある所であることが分かりました。訪問先の組合員さんのお話を聞くと、「地震により家具の多くが倒れ、ブロック塀が壊れた」「家屋にひび割れが出来るなどの被害があった」とのことです。しかし、その被害の多くが自治体による調査で、一部損壊と判断され、修理費の全てを被災者の方が負担しているようです。

メディアの多くは津波の被害ばかりを伝えていますが、地震による被害も確かにあることが分かりました。津波の被災者だけでなく、地震の被災者に対しても支援が必要だと感じました。

他団体のボランティアとの出会い



立ち寄ったとあるコンビニで仙台から来られたボランティアの方々と出会いました。その方々は、宮城県各地で「がんばろう」ステッカーを配ってまわられておられるようです。また、真庭区民会館では富山県氷見からいらっしゃったカレー学会の方が炊き出しをされていました。社協から派遣されるボランティアの方々も毎日頑張られています。今後、様々な団体の方々と何かしらの協力体制を築いていけたらと願います。